

平成 25 年度(第 13 回) 私立短大入試広報担当者研修会

分科会 : G 5

運営委員 : 大阪城南女子短期大学 山田純

G 5 分科会報告書

《 目標設定 》

本研修会開催の目的にある「政策提言能力と情報発信能力の向上」と、分科会の目的である「さまざまな条件の中で、問題点を整理し解決方法を考える」を 2 大目標に設定しました。その上で「小グループメンバーの発言をバランスよく」をテーマとして取り組みました。

《分科会 1 日目》

- 1) 自己紹介 : 1 人 6 0 秒を持ち時間として全体で自己紹介
- 2) バーチャル短大選択 : バーチャル短大 1、四大併設都市型(1 グループ選択)
バーチャル短大 2、短大のみ都市型(1 グループ選択)
バーチャル短大 4、短大のみ地域密着型(2 グループ選択)
- 3) バーチャル短大共有 : 次プログラムの自学教職員向け短大紹介に向けてバーチャル短大の状況を考える
- 4) 自学教職員向け説明 : 政策提言・情報発信能力向上のため他のグループを自学教職員に見立て 5 分でプレゼン
- 5) 1 日目総括 : まとめと各自準備した自己紹介カードを見て投票

《分科会 2 日目》

- 6) 導入 : 昨日の振返りと自己紹介カード投票結果
- 7) バーチャル短大広報計画 : 次プログラムに向けて、バーチャル短大広報計画とプレゼンを考える。
- 8) 自学教職員向け広報計画説明 : (4)と同様に他グループを自学教職員に見立て、ここでは広報計画をプレゼン
- 9) 研修会総括 1 : 全体に向けて 1 人ずつ、今研修会についてのまとめを発言
- 10) 研修会総括 2 : 運営委員まとめ

《 分科会全体 》

分科会全体としては比較的満足いただけたようで、参加者の研修報告の報告や、オープンキャンパスにむけて早速部署内で提言をしたとのメールをいただきました。しかし「小グループでの発言をバランスよく」と考えたため、長く話をしたい参加者に発言を制限されたような印象を持たれてしまったことは力量不足そのものでした。また、分科会時間が短いことを言い訳に、研修会全体講演の内容を分科会で振返り、散りばめることが出来なかったため講演会の意義を共有できず、研修会全体講演会の評価を高めることができなかったことを反省しています。分科会の時間配分については、後半が時間不足に陥ってしまいました。

《 研修会全体運営について 》

初日全体講演時「いいね！」でアイスブレイクの役割を一定果たせたかと思います。事後ですが、各テーブルで完結するのではなく、大きなプレートに書いて掲げていただくなどの方法を取ることで各テーブルの一体感をより高められたと気付きました。前述の分科会の時間不足と矛盾しますが、全体会での最終まとめを行うべきか、費用面を含めて考えさせられました。

その他、細かいことですが以下の2点が今後の検討事項だと考えます。

- ① 参加者申し込み時に経験年数だけでなく、転職経験の有無を聞く項目を設ける。この項目なら失礼にあらず、人物像を描きやすいのではないのでしょうか。
- ② 2日目全体研修終了後の「懇親会」について非公式な案内の必要性は。

短大同士での受験生の奪い合いでない広報を具体的に考える時期ではないかと思います。その共有の場として研修会を活用したいです。また、短大内の組織でありながら入試広報担当者は、学外への活動を担っています。その特殊性から学内での意識共有が難しいため、研修会で自らの活動を再確認できればと考えています。分科会参加者から「最近仕事で迷うことが多かったが、自分の活動が間違っていないことを確認でき、これから迷わず仕事を頑張れます。」との意見を頂戴しました。厳しい短大の状況の中で、大きな何かを示し続けることに当研修会の意義があると再認識しました。